

2018
10
No.152

喜多方普及だより

祝 福島県農業賞 (農林水産大臣賞)
(株)五十嵐ファーム (喜多方市熊倉町)

9月7日表彰式にて

喜多方市熊倉町の株式会社五十嵐ファームが、第59回福島県農業賞(農林水産大臣賞)を受賞されました。

株式会社五十嵐ファームは、平成27年に代表取締役の五十嵐貞雄氏が、奥さん、御両親の家族4名で設立した肉用牛(繁殖+肥育)経営の法人です。

同社は、平成元年に肉用牛の肥育を開始し、平成13年に肉用牛繁殖部門を取り入れ、その後、徐々に頭数を増やし、現在では家族労力と雇用労力により100頭を超える肉用牛を飼育しており、肉用牛の販売額は、肉用牛の生産が盛んなJA会津よつばいいで地区でもトップクラスとなっています。

また、飼養管理技術も高く、子牛の販売単価や枝肉単価、枝肉銘柄率はJA部会平均を上回っており、各種共励会でも数多く入賞しています。

同社では、ICT機器(分娩監視カメラ)の導入による分娩管理作業の負担軽減、完全人工哺育による母牛の出産サイクルの短縮と子牛の順調な生育の確保、飼料費削減のための専用田植機を活用した直播栽培によるWCS用稲の栽培等に取り組んでいます。

今回の受賞は、高い飼養管理技術に裏打ちされた収益性の高い畜産経営を確立していることに加え、先端技術や省力・低コスト化技術の導入等に積極的に取り組んでいることなどが、高く評価されたものであります。

同社は、現状に満足することなく、更なる規模拡大を目指しており、地域の畜産振興の担い手として、今後ますますの発展が期待されます。



知事を囲んで五十嵐代表と早紀恵さん

先端技術の実証に取り組んでいます！

水稲の大規模経営の実現をめざして

県では、経営面積100ha規模の水稲の大規模経営体(水田メガファーム)の育成に向けて、平成30年度から「ふくしまアグリイノベーション実証事業」を実施し、低コスト、高収益化、作業の効率化・省力化を可能とするICT(情報通信技術)や先進技術を営農規模で実証しています(県内6カ所)。

当普及所では、今年度から、①「密播」の導入による播種・育苗管理の省力・低コスト化、②水田センサーを活用した水管理の省力化、③ICTを活用した収穫・乾燥作業の「見える化」と効率化等について実用性を検討しています。

5月22日には「密播」の現地検討会を開催し、生産者を中心に多くの皆様に参加いただきました。

今後、現地検討会や実績検討会等を開催し、先進技術や実証結果について皆様に御紹介してまいります。



密播と慣行育苗の苗比較



密播苗の移植作業



水田センサーによる水管理

落花生の機械化体系の導入に向けて

落花生栽培は機械化体系が遅れており、主産県においても手作業が中心となっています。

喜多方地域においては、産地再生に向け作付面積の拡大を推進していますが、水稲作業との競合もあり、小規模作付が主体となり、作付面積が伸び悩んでいます。

これらを解決するため、今年度、「次世代を担う地域農業先端モデル実証事業」を活用し、西会津町松尾地区に機械化体系実証ほを設置しました。

実証ほでは、同時穴空けシーダーマルチャーによるマルチ・播種作業の省力化、落花生収穫機による収穫作業の省力化について現在検討しています。

これまでの調査からシーダーマルチャーは、播種精度、出芽率、各種マルチ種類による適用性等、手播きと概ね変わらない結果が得られており、実用可能と判断しています。今後、収穫機の実用性と併せ、規模別の収益性も検討の上、実証成果を取りまとめることとしております。



実証ほでの現地検討



シーダーマルチャーによるマルチ・播種作業



落花生の生育状況

今年もお願いします「米の全量全袋検査」

平成29年産米の喜多方地域の検査件数（平成30年7月31日現在）は約99万件で、すべて基準値以下という結果となっています。御協力ありがとうございました。

平成30年産米もすべての県産米の安全生産確保と一層の信頼向上のために、引き続き「米の全量全袋検査」を実施しますので、御理解と御協力をお願いします。

検査の対象となる米は、出荷・販売する米はもちろんですが、「自家消費米」、親戚などに配る「縁故米」、販売される「ふるい下米」、「飼料用米」など、「**すべての米**」が検査対象です。

全量全袋検査を受けて、検査済みラベルが貼られた米袋だけを利用されるようお願いいたします。また、土砂等の異物混入がないよう、丁寧に調製した上で、検査を受けるよう注意してください。



今年は水色です。昨年の桃色のラベルは使用できません。

穀類モニタリングについて

平成30年産の穀類は、**市町村ごとに1点以上**モニタリング検査を行います。出荷販売が可能か否かは、普及所にお問い合わせください。また、福島県水田畑作課のホームページ（「平成30年産穀類のモニタリング検査市町村別進捗状況 <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/daishinsai-kokurui-monitoring-shinchoku-33.html>）にも県内の検査実施状況を掲載しています。

【対象品目】大豆、そば(夏そば、秋そば)、麦類(小麦、二条大麦、六条大麦、※はだか麦は条数に応じて二条大麦または六条大麦として検査)、雑穀(ライ麦、小豆、ダツタンソバ、アワ、キビ、ヒエ、ハトムギ、アマランサス、食用ソルガム)

※雑穀については、過去の検査実績がない品目が対象となります。

雑穀の市町村別検査対象品目（○印が検査対象）

| | ライ麦 | 小豆 | ダツタンソバ | アワ | キビ | ヒエ | ハトムギ | アマランサス | 食用ソルガム |
|------|-----|----|--------|----|----|----|------|--------|--------|
| 喜多方市 | | | ○ | | | | ○ | | |
| 北塩原村 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 西会津町 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |

トピックス

平成30年度第1回喜多方地域普及推進懇談会を開催しました！

農業者や有識者、関係機関の意見・要望等を農業普及指導活動に反映させ、より一層の効率化を図るため、8月23日(水)に本年度第1回目となる懇談会を開催しました。

今回の懇談会は、本年度の普及指導計画の概要や本年度から新たに取り組んでいる水田メガファーム及び落花生の機械化体系実証ほの取組等について御説明申し上げるとともに、現地において当地域の主力園芸品目であるアスパラガス及びミニトマトの生産状況を検討いただきました。

今回は、普及指導活動への御意見のほか、渇水対策についても御意見を頂くなど大変有意義な会議となりました。

来年2月には第2回懇談会を開催し、今年度1年間の普及指導活動の実績について御検討いただくとともに、次年度の普及指導計画(案)についても御意見を頂くこととしています。



懇談会の開催状況



アスパラガスほ場での現地検討

GAP 認証を取得しました！ 喜多方市塩川町 辰野 博幸さん

喜多方市塩川町の辰野博幸さんが、お米でふくしま県GAP（FGAP）を取得しました。かつてISO認証取得に関わった経験から、GAP認証はISO認証の農業版であると考え、取り組む必要性を感じたそうです。また、農業経営を見直すツールとして、さらには次の世代に農業を繋ぐ基盤づくりのため、認証の取得を考えたとのことでした。

昨年秋から取り組み始め、今年3月に審査を受けたため、準備期間は半年もありませんでした。

そのため、適合基準と呼ばれる審査項目が多いこと、それらの項目に適合するためにはどうすれば良いか、どのように記録をするか考えることが大変だったそうです。

現在は、将来を見据えて、グローバルGAPの取得を目指しています。



認定書を手にする辰野さん



燃料の流出防止対策も万全

お知らせ 福島県農業総合センター農業短期大学校 平成31年度学生募集

農業短期大学校では、実践的な農業の技術力と経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、学生を募集しています。募集要項、学校案内等については、喜多方農業普及所にお問い合わせいただくか、農業短期大学校教務管理（0248-42-4113）まで御請求願います。

| 農業経営部（学科名） | 募集人員 |
|-------------------------|--------|
| 水田経営学科／野菜経営学科 | 各15名程度 |
| 果樹経営学科／花き経営学科 畜産経営学科 | 各10名程度 |

| 区分 | 願書受付 | 試験日 |
|--------|-----------------------|-------------|
| 推薦入校試験 | H30.10.1(月)～10.5(金) | H30.11.2(金) |
| 前期募集 | H30.11.12(月)～11.16(金) | H30.12.7(金) |
| 後期募集 | H31.1.15(火)～2.1(金) | H31.2.15(金) |

稲わら焼却防止：稲わらはすき込みや堆肥化などで有効活用しましょう！

稲わらや籾殻の焼却は、煙害による地域住民からの苦情や視界不良による交通事故の発生、火災発生の危険の他、観光地としてのイメージダウンにも繋がります。たい肥化や水田へのすき込みを行い、米の品質向上につなげるための有機質資源として活用しましょう。

稲わらのすき込み方法

- ・すき込みは地温の高い10月中旬頃までに行いましょう。
- ・耕深は5～10cmの浅うちとし、ほ場の地表水排除に努めましょう。
- ・ガスわきを抑えるため、分解資材や土壌改良資材を活用し、腐熟を促進させましょう。

稲わらのすき込み効果

土壌の保水力や窒素供給力が向上し、たい肥施用と同等の土づくり効果が期待できます。

秋の農作業安全確認運動展開中です！ 平成30年9月1日～10月31日

テーマ まずは、ワンチェック、ワンアクションで農作業安全

農作業事故が多く発生する時期を迎えました。
声のかけ合い・安全確認で農作業事故をなくしましょう。



～ 内容に関するお問い合わせ、農業に関する相談はこちらへ～

会津農林事務所 喜多方農業普及所
住所 〒966-0901 喜多方市松山町鳥見山字下天神6-3
電話 0241-24-5743、5745 FAX 24-5746 E-mail kitakata.af04@pref.fukushima.lg.jp
ホームページ [喜多方農業普及所](#)

